

## 共和小学校 PTA（保護者） 意見交換会

令和 4 年 3 月 25 日（金）18 時 30 分から 20 時 00 分  
川里生涯学習センター

① 参加者（7 名）

② 出席者

齊藤教育部長 鳥沢教育総務課長 新井副主査 堀主任

③ 以下、主な意見要旨

---

（保護者）

4 月以降も事務局の顔ぶれに変更はないか。

（事務局）

本日、出席している 4 人に変更はない。

（保護者）

平成 27 年度の審議会で諮問された小・中一貫校の構想が断ち切れた理由は時期尚早だけなのか。もっと具体的な理由はないのか。

（事務局）

統廃合の流れが全国的に今ほど強くなく、他地域の状況を判断してからというのが事務局や審議委員の考えとしてあった。また、共和小学校の児童数の減少も今より緩やかなこともあり、時期尚早という判断をしている。しかし、今後さらなる児童数の減少が見込まれ、令和 9 年度の入学児童は 4 人の見込みとなっている。入学児童が一桁になる前に対応すべきということで、今回改めて諮問をしている。

（保護者）

地域や保護者から統合してほしいという意見がでてきているのか。

（事務局）

現時点で、直接統合してほしいという意見はもらっていない。地域や保護者の意見は伺いながら進めていくが、平成 27 年に定めた「適正配置等に関する基本的な考え方」に定められている存置の基準等に基づいて、今回の諮問をしている。（統合してほしい、ほしくないという要望だけで進めるものではないと認識している。）

---

---

(保護者)

自分自身 13 人の学級でクラス替えはなかったが、必要性を感じなかった。クラス替えの必要性とは。

(事務局)

単学級の場合、人間関係が固定化されてしまうことやクラスの男女比が崩れてしまう場合がある。他にも、いじめが発生した場合に逃げ場がないといった理由からもクラス替えは必要であると考えている。

(保護者)

いじめはいつ起きるかはわからない。授業中ではなくて、休み時間等にいじめを行うため、クラス替えをしたところで根本的な解決にはならない。

(事務局)

クラス替えがいじめの根本的な解決ではないという事は認識している。

教職員の見守り等も含めて、対応は状況により違ってくるため一概には言えない。しかし、クラスが変わるだけで、現実的に顔を合わせる機会が減るなど、児童の気持ちは違うと考えている。

(保護者)

適正規模について 12～18 学級といわれているが、この数字に根拠はあるのか。

(事務局)

少人数ではなく、ある程度の集団で育つことで競争原理が働く。

学習面において、今後は、小学校でも高学年において教科担任制が導入される見込みのため、ある程度の学級数がないと教職員を配置することができない。

生活面では人間関係が固定化されてしまう。クラス替えがあることで、より大きな人間関係を築くことができる。

また、少人数の学校だと教員の人数も少ないが、国からの調査等は他の適正規模学校と同じ振り分けとなっている。そのため、事務に追われる時間が多く、子供と向き合う時間、教員が研修に行く時間等を設けることができない。

これらの理由から、各学年クラス替えのできる 2～3 クラスである、12～18 学級を適正規模校としている。

(保護者)

全国で統廃合が進んでいるが、統廃合した学校における学力レベル等の統計結果は集計されているのか。

(事務局)

学力を図るようなテストは行われているが、どこかの学校が良い、悪いというのはお伝えすることはできない。

---

---

(保護者)

統廃合による学力的効果は、感覚的なものでしかないのか。

(事務局)

学力を向上させることが目的の全てではなく、教育環境を整えることが目的であり、学力向上とイコールにはならない。また、効果が出るにしても、すぐに表れるわけではない。

しかし、市内の小中学校を適正規模校とすることで、全ての児童により安定した教育を提供することはできる。

(保護者)

数値や蓄積されたデータを次の統廃合につなげる必要がある。現状をしっかりと分析し、足場を固め、事業を進める必要がある。

そのような蓄積されたデータが全く足りてなく、大きな金額をかけて事業を行うはずなのに、現状の分析ができていないことに大きな不安を感じる。

子供がいきいきと生活できる場を設けることが第一であり、未来の子どもたちのために素敵な学校を残すためにも真剣に考えていく必要があると考えている。その辺の認識の甘さを感じる。

(事務局)

学力の向上は担当する先生によっても変わってくる。適正規模校だからといって学力が高くなるわけではなく、一概にデータを出すことは難しい。

生活面においては、小・中一貫教育の推進により、中一ギャップが解消されることで、不登校の減少は数値として出てきている。

(保護者)

スクールバスは2kmが基準となっていると思うが、どこが建設予定地になっているかは分からないが、仮に川里中学校周辺だとすると、対象地域というのは少ないのではないか。

(事務局)

笠原地域では直線距離で2kmを超える地域だけでなく、全域でスクールバスを運行することになっている。これは郷地橋周辺の交通量が多く、歩道も整備されていない状況で、児童を歩かせるには危険と判断したためである。

具体的な運行方法は今後検討していくことになるが、3校で統合された際には、川里地域においても、スクールバスを全域で検討する必要があると考えている。

(保護者)

規定を変更することも場合によっては考えられるということか。

(事務局)

必要があれば、変更をしていく。

---

---

(保護者)

スクールバスは無料か。

(事務局)

現時点で、料金の徴収は考えていない。

---

(保護者)

フラワー号は100円から200円に値上がりしていることを考えると、この先どうなるのかというのは不安に感じる。

(事務局)

現時点において、有料にするというのは考えられない。

---

(保護者)

各家庭において、子どもの人数によっては大きな出費になってしまう。有料化は避けてほしい。

---

(保護者)

ひまわり保育園では、バスの利用が有料になっている。

(事務局)

保育園では、保護者による送迎が基本となる。その中で、バスでの送迎を選択していることから料金を徴収していると考え。学校とは状況が違う。

---

(保護者)

想定している乗降場所の数は。

(事務局)

笠原地域では、来年度から7か所の乗降場所を設置することになっている。

川里地域においても、交通量の多い道路といった、危険な場所を歩かずに乗降場所まで来ることができるように、複数の乗降場所の設置を検討することになる。

---

(保護者)

自分は3~4クラスあるような小学校に通学していた。クラス替えがあるからといっていじめが解決するというわけではなかったと思う。こちらに引っ越してきて、はじめは1クラスという児童の少なさに驚いたが、実際に通ってみるとみんなが仲良しで、何か問題があれば全員で解決するといった、少人数学級の良さを感じた。

先生方の仕事量については、教育委員会で事務の振り分けを行うなど、負担軽減の方法を検討してほしい。

一方で、運動会のようなイベントにおいて、人数が少ないことによる寂しさというのは感じることもある。

---

(保護者)

小規模校とそれ以外の学校で超勤の時間は異なるのか。

(事務局)

教育委員会で推奨しているわけではないが、自宅で持ち帰って仕事をしている先生方も一定数いる。その時間というのは把握することはできない。

---

---

(保護者)

鴻巣市として、ICT教育を進めていることは把握しているが、端末を一人一台配布することで、利便性は増加するがいつでも働ける環境があるのは悪い面もあるように感じる。

(事務局)

おそらく、平成23年、全教職員にPCを配布している。今実施しているのは児童を含めた全員にタブレット型端末を配布する事業である。

当時、各個人で購入、使用しているウイルス対策がされていない端末をLANに繋げることでネットワーク全体に支障をきたすような事例が多くあったため、ウイルス対策として端末を一律に配布した経緯がある。

また、端末を持っている先生だけが授業に活用するのではなく、一律で端末を所持し、全ての先生が端末を活用し授業を行ってほしいというのが教育委員会の考えとしてある。

決して、自宅で仕事をすることを推奨しているわけではない。

(保護者)

新しい学校を作る上では、小中一貫校、義務教育学校、どちらを目指しているのか。

(事務局)

現時点で、具体的なビジョンは決まっていないが、他地域においても統合していく中では義務教育学校にしている自治体が多い。鴻巣市でもこれらを参考に義務教育学校を目指していくことになるとは思うが、物理的な面やどちらがより多くのメリットがあるか等を検討した上で判断していきたい。

---

(保護者)

小中一貫校と義務教育学校では何が異なるのか。

(事務局)

前者は小学校と中学校の交流機会や小・中学校の教職員の連携を深めることで、中一ギャップのような不安の解消を図るもの。後者は小学校と中学校で職員室が一つ、イベントも一緒というように9年制の一つの学校になっているようにイメージしてもらいたい。

---

(保護者)

統合年度は令和10年度ということだが、具体的なスケジュールはどの段階で示していくのか。

(事務局)

令和10年度に統合というのは最短のスケジュールになっている。

具体的なスケジュールについては、2回目以降の審議会で示していきたいと考えている。

---

(保護者)

7月が答申予定となっているが、現時点でスケジュールがでていないというのは進め方に大きな問題を感じる。具体的なビジョンも示されずに検討などできない。

常識的なスケジュール設定やプランニングで検討してほしい。

この検討方法については反対。ダメだと思う。PTA役員をやると地域の方の協力の大切さがとてもわかる。この進め方だと地域の方々は協力してくれないし、新設後の学校運営にも大きな影響が出てくる。地域の意見を取り込みながら検討する必要がある。このやり方は絶対に失敗すると思う。

---

---

(事務局)

1回目なので、範囲を絞って意見交換会を行っている。今後、地域の人たちも含めて意見交換会は行っていく。本日、お集りいただいた方々だけで決定していくわけではない。

(保護者)

7月の答申に間に合うのか。

(事務局)

答申と実際に事業を進めていくのは別の話である。

(保護者)

今回は答申をもとに審議が中断されたと思うが。

(事務局)

中断されたわけではなく、継続審議という旨の答申に基づいて、今日まで審議されてきている。

(保護者)

具体的なスケジュールや考え方を明確に示すべき。

(事務局)

本日は1回目の意見交換会。答申後、コンサル等への依頼を含めて、具体的な学校の内容を検討し、それを示した上で、意見交換会等も行っていきたいと考えている。

(保護者)

作ると決まってから地域の人などに議論に加わってもらえるのか。その方法だと、学校づくりに反対していた人の学校に対する思いがなくなってしまう。

(事務局)

なぜ反対なのかが課題であると考えます。

(保護者)

プランが甘い。明確ではない。明確ではない真っ暗な所を進もうとしている。しっかりとプランを示して、実際に通う子どもたちの事も含め、どうやったらみんなに入ってもらえるのかを考える必要がある。この検討方法だと失敗する。

(事務局)

プランについては、他市の例等を含めて今後示していく。

(保護者)

川里中学校付近を建設予定地として考えているのか。

(事務局)

義務教育学校等にしていく上で小学校と中学校の距離は近い方が良いとは考えている。

---

---

(保護者)

農業研修センターとかは。

(事務局)

今後、そのような意見を皆さんから頂戴しながら決定したい。

(保護者)

自分がPTA会長として矢面になるので、とにかく計画を明瞭にしてほしい。何か聞かれたときに回答できるようにしてほしい。この検討方法だと不安だし、失敗すると明確に思っている。

先日、テレビで北海道旭川市の中学2年生の女の子が、(いじめが原因で)自ら死を選んで3月に雪の中から(遺体が)発見されたことについて放送があった。命の大切さを再認識した。

子どもには安全に帰ってくるようにいつも言っている。社会性や成績より、命あってこそ思っている。その命を学校に任せている。それだけの思い入れを持って子どもたちのために何かを作っ  
てあげなければならない。

県内の1,200人以上の児童がいる学校で、コロナ感染者が全児童の1割以上になった。規模が大きいと感染リスクがあがる。学校を作るなら感染症対策をしっかりとしてほしい。

とにかく、児童の命を第一に考えてほしい。スクールバスにおいても、校舎の作りにおいても児童の安全が確保できるようなものを考えてもらいたい。

もっとしっかりと考えてほしい。この計画では命を守れないという認識を持っている。検討方法をしっかりと考えてほしい。

(事務局)

教育委員会としても児童の安全を第一に考えており、スクールバスにおいても児童の降ろし忘れ等の事故がないように、運行方法は綿密に計画している。

(保護者)

具体的な数値を出してほしい。例えば、スクールバスを使用することで体力が低下しますというデータや教職員の残業時間等、分かる範囲で良いので示してもらいたい。具体的な数値を示してもらったほうが納得できる。弱点をあわせてクリーンに公表することが大切だと思う。

---

(保護者)

PTA会長という立場なので、意見交換会に出席して、真剣に考えることができている。この場に出席できない方はもちろん、子どもたちからも意見を聞く場を設けてほしい。

---

(保護者)

本日は統合が決定している上での意見交換会と考えていた。

自分は1000人規模の大規模校出身のため、クラス替えがないことによる人間関係の固定化や競争心が育たないのではないかということについて、入学前は心配していた。

実際に入学すると、そのような不安を感じることはなく、学年によって異なると思うが、自分たちの学年は児童同士の仲が非常によく、保護者の結びつきもとても強く、少人数の良さを感じている。

また、スクールバスによる体力の低下も心配している。自分が通っていた学校は全員徒歩で、学

---

---

校から遠い家庭の子は運動ができる子が多いように感じた。

デメリットとして、林間学校等の交流事業が少ないときに（コロナのため）、中一ギャップが心配される。

他にも、中学校に入学する児童が学力面でどこまで仕上がっているのか、どのような性格をしているのか中学校の先生は分からない。そういう面では、小中一貫校で先生同士の連携が密にとれているのは魅力的に思える。

また、少人数だと教員のバランスが悪くなってしまう学年があるように感じる。例えば、学年主任が若い教員になってしまうこともあるのではないかな。

時代的に統廃合はやむを得ないと感じるが、跡地活用は考えてほしい。地域の意見を取り入れながら検討してもらいたい。

---

（保護者）

本日は統合が決定している上での意見交換会と考えていた。

共和小学校は地域の人たちとのつながりがあって成り立っているように感じる。今日は1回目的人数を絞っての意見交換会だが、今後は地域の人たちからも聞いてほしい。

また、先生方も苦勞されていることは多いと思うので、仕事のあり方も改善しつつ、地域や児童が満足するように、バランスよく審議が進んでいくことを望む。

---

（保護者）

本日は統合が決定している上での意見交換会と考えていた。

自分は、新設されて2年目の小学校に入学した。新しい設備もあり、周りの友人からは羨ましがられることもあり、自慢の学校だった。もし、川里地域でも小学校を新設するのであれば、他の小学校にはないような新しい設備を導入して、自慢できるような小学校を作ってほしいと思う。

---

（保護者）

本日は統合が決定している上での意見交換会と考えていた。

コロナ禍でストレスを抱えている児童たちが楽しく通学できるような小学校が設立できると良いと思う。学年を超えて、みんなが名前を憶えている、地域の人たちも協力して見守りをしてくれる、そのような共和小学校の良いところが次の小学校でも感じる事ができれば良いと思う。

---

（保護者）

とにかく子供の命を育むことに特化した小学校を作ってもらいたい。

極論を言えば、保護者や地域の人たちの意見を気にする必要はない。

いじめで命をなくすようなことはやめてほしい。いじめが発生する雰囲気も作ってはいけない。

子どもの命を守れないのであれば、今回の計画は白紙にするべき。それぐらいの重さがあるのが今回の審議だと思う。

（事務局）

子どもたちの命を考えるとということは、教育現場に限らず、社会全体で当然に取り組みなくてはならないこと。そこは一番に考えて子どもたちが健やかに過ごしていけるような教育環境を整えていきたい。その上で、今後、保護者をはじめとした地域の方々、多くの方から意見を伺いながら審議を進めていきたい。

---